

## 前島密翁関係団体と津有区地域協議会との情報交換会（記録）

1 日 時：令和4年1月31日（月）午後6時から午後8時まで

2 会 場：前島記念館 別館

3 進 行

- |                     |                |
|---------------------|----------------|
| (1) 挨拶              | 藤本会長           |
| (2) 自己紹介            | 地域協議会委員が自己紹介   |
| (3) 津有区地域協議会の活動について | 事務局説明          |
| (4) 関係団体の皆様へ質問      | 各団体から発表        |
| (5) 意見交換会（グループワーク）  | 2グループに分かれて話し合い |
| (6) 発表              | 意見交換の結果を発表     |
| (7) 挨拶              | 田中副会長          |

4 内 容

### ○ 「関係団体の皆様へ質問」の記録

- ・ 各団体から活動状況と「津有区に期待すること」「津有区に対してできること」について回答いただいた。

#### —— 前島記念館 ——

（活動および近況）

- ・ 前島記念館の来館者への説明が主な活動。大河ドラマの影響で市内、市外、県外からも来館者が増加している。
- ・ 前島密について研究している人は多いが、郵政博物館館長からは「前島研究はまだ進んでいない」と言われている。
- ・ また「翁」の呼称はやめよう、と言われている。
- ・ 前島密は（郵便の父）より（日本近代化の父）がふさわしい。石碑の書き出しに「日本文明の一大恩人」とあるように人物のスケールが大きい。
- ・ 前島密は人の為になる新しいものを求めて生きていた。古いものにはしがみつかない。

#### —— 前島密翁献碑祭実行委員会 ——

（活動および近況）

- ・ 献碑祭は今年が100周年である。皆さんの更なる協力を仰ぎたい。
- ・ 市長へ前島記念公園の拡張を要望している。また市の文化振興課から、献碑祭を市の事業としてはどうかとの打診を受けている。

#### —— 郵便局長会 ——

（活動および近況）

- ・ 上越地域の郵便局長の会。全国238ブロックに分かれている。
- ・ 全国の郵便局員は、最初に前島密の功績から教育を受ける。

- ・ 郵便局は「郵政事業の発展」、「地域貢献・地域奉仕」をモットーとしている。
- ・ 局長会のほか、局長婦人の会も活動しているので、協力できると思う。
- ・ 昨年は郵政事業 150 周年事業を行い、前島密の功績について勉強した。

(津有区に期待すること)

- ・ 前島密は横須賀出身と言われる人がいる。全国に津有区が生誕の地であることを知ってもらえる活動をしてほしい。

(津有区に対してできること)

- ・ 前島密に関するイベントがあれば何でも協力したいと思っている。

#### —— 前島密翁を顕彰する会 ——

(活動および近況)

- ・ 前島密に魅かれ「学ぶ」から「伝える」活動を実践しており、さらに全国発信へと進展してきた。
- ・ これまで前島密の生誕または没後の周年事業を行い、パネル展や講演会等を行ってきた。実施する際には博物館など数々の施設や団体と連携して行ってきた。
- ・ 津有区には前島密の縁の品が未だ残っているはずであり、情報があれば教えてほしい。

(津有区に期待すること)

- ・ 前島密の足跡が津有区内に残っていると思うので、組織的に掘り起こしてもらえると有り難い。

(津有区に対してできること)

- ・ まだ前島密を知らない人に対して、知らせる機会を作ってほしい。パネル展で使ったパネルを活用いただくこともできる。

#### —— ふれあいハガキの会 ——

(活動および近況)

- ・ 「子供の頃からハガキで心を伝えよう」の精神でコンクールを開催している。
- ・ 小学4～6年生を対象に、絵ハガキを作成してもらい、最高賞は「前島大賞」である。
- ・ 文章と絵による素晴らしい作品が毎回届いている。

#### —— ヨモギ文庫復活プロジェクト ——

(活動および近況)

- ・ 地域に伝わる「ヨモギ文庫」という文化を現代版に復活させて、子どもたちに今一度、読書の喜びを伝えようといわれているプロジェクトである。
- ・ 前島記念館などから取材して、前島密の絵本を作成し、小中学校に配布を予定しているが、現在納品が遅れている。

(津有区に期待すること)

- ・ 前島密はよく知られていない。写真を見て前島密だと答えられるような状態を望む。

(津有区に対してできること)

- ・ 前島密の認知度が低いので、絵本による周知を図りたい。子供から何かコラボレーションした活動がしたい。

—— ちりつも観光プロジェクト ——

- ・ 「塵も積もれば山となる」の諺のとおり、前島密をたたえ「日本一ハガキを出すまち」を合言葉に、市民一人一人がハガキを知人に出して地元をPRしている。
- ・ これまで9年間、高田区の地域活動支援事業を使って年間5,000枚のハガキを刷って郵便局経由で希望者に渡してきた。
- ・ 今年は県内の郵便局長へハガキを送ったり、SNSを使ったPR活動を行っている。

(津有区に期待すること)

- ・ 前島密のとらえ方を「若き日に全国を巡回し、新しいことを始めた人」とすると、若い人に新しいメッセージとして伝わると思う。「翁」は古き良きものを伝えるにはふさわしい言葉だが、若き日の功績を出生地の津有区から発信できると良いと思う。

(津有区に対してできること)

- ・ 前述のとおり、「新しいことをした人」として発信する際に、何か手伝いが出来たら良いと思う。

—— 前島記念池部郵趣会 ——

- ・ 切手収集の趣味の会。会長は高田郵趣会会長も兼ねている。
- ・ 郵便局長会が行う行事の補助役として発足した。
- ・ 現在は切手と平和教育の展示会や講演会を行っている。
- ・ 昨年の展示会では、顕彰会からパネルを借用して展示会場に飾ったところ大変好評であった。
- ・ 関係団体からの協力のほか、新聞社から記事として紹介いただけると発信力が増す。

(津有区に期待すること)

- ・ 前島密の地元であることを強みにして、認知度を上げてほしい。



(開会の挨拶)



(各団体の活動状況紹介)

○ 「発表」の記録

- ・ 2 グループ（A・B）に分かれて意見交換を行い、終了後にグループで話し合った内容を発表いただいた。

（進行担当者） A＝藤本会長、B＝田中副会長

（記録・発表担当者） A＝中島委員、B＝古川勝夫委員

【Aグループ】

- ・ 献碑祭実行委員会から報告があり、献碑祭には市の文化振興課から補助金が出そうだとのことであった。
- ・ 前島密は上杉謙信に準ずる位置づけが必要である。市は一生懸命やっていると言っているが、前島密の顔を各所で見たことはない。
- ・ 上越市は文化に対して熱い思いがないのではないかと。関係団体が大変な活動をしている中で、大型駐車場を完備した公園整備が必要である。新市長のこれからの展開が楽しみである。
- ・ 地域活動支援事業が、「地域からの要望」から「地域独自の事業」へと展開する。様々な団体が色々な活動をしているので、盛り上げるチャンスになるのではないかと。
- ・ 前島密の功績の中で、献碑祭をどうするのか。市全体の中で津有区地域協議会がどう関わられるかを考えていきたい。
- ・ 津有区に、どうやって人を集めるのか。津有区としての制限はあるが、市は他の地区とつながりを持てるので有機的につなげていきたい。
- ・ 全国発信は大変だが、津有としてどう関わられるか、関係団体から情報をいただければ協議会として参加していきたい。顕彰会の活動で前島密の足跡を追い、全国を訪ねたことで、各地の人とのつながりができた。全国の地域で頑張っている人がたくさんいる。我々ももっとできるのではないかと。
- ・ 津有区の中での郵便の父だけでなく、日本の中でも大きな位置づけが必要だが、まず津有に住んでいる人にこのことを知らせ、分かってもらうことが我々の活動の意味ではないかと。
- ・ 郵便以外の功績がたくさんある中で「翁」ではなく、前島密の若い時の取組が大事。敬称を見直すことは前島密を捉えなおす大きな意味がある。
- ・ ハガキの会の表彰式で分かるようにマスコミの力は大きい。ただし取り上げてもらうのが大変。
- ・ ちりつも観光プロジェクトの活動は、前島密を前面に出してもらえれば地域活動支援事業に参加いただけるのではないかと。

【Bグループ】 ※団体ごとに発表をまとめた。

(献碑祭実行委員会)

- ・ 今年は献碑祭100周年の本番で、金管バンドなど小学校との関わりを考えている。
- ・ 他団体から協力を得ながら町内会が実働で行う予定である。
- ・ 市とパンフレットの作成について話し合っている。行政でも積極的に宣伝してほしい。

(局長会)

- ・ 地域が行うイベントには積極的に協力する。今でも前島記念郵便局で地元小学生と一緒にイベントをした実績など、地域のボランティア活動を続けている。

(顕彰会)

- ・ 墓前祭と一緒に行ってもらえたらよい。
- ・ キーワードは100周年。子供たちに伝道師となってほしい。
- ・ 公園や大河ドラマ等は実現してほしい。

(ヨモギ文庫復活プロジェクト)

- ・ 津有区地域協議会で、PRの方向性を示してほしい。それにより今以上に参加することができる。
- ・ ヨモギの精神から、子供の教育は大切であるので、郷土の偉人について学校現場で取り上げてほしい。

(池部郵趣会)

- ・ 子供たちによるカルタ作り、家族でできる双六などで功績を伝えたらどうか。(カルタは既に作成したものがある)

(全体を総括して)

- ・ 前島密の功績は多く、どれを取ればよいか分からないが、子供と共に活動を行っていったらよいのではないか。



意見交換 (Aグループ)



意見交換 (Bグループ)